

図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員をも含めた多様な労働条件の整備に取り組む内容となっています。

ライフステージに合った多様な働き方が選択でき、賃金格差などの解消が進めば、「家事・育児のため仕事を続けられそうにない」と就業をあきらめた女性たちも活躍の場を広げ、男性にとっても仕事と生活の両方が充実するのではないのでしょうか。

今回登場した飯嶋さんが「支店長が女性？とまず言われます」と話しているように、日本における管理職や専門職に占める女性の割合はわずかです。しかし、女性たちの活躍を通して、時代は変わってきていると感じます。自治会活動に取組んでいる内海さんのように、地域の活性化に目を向ける女性も増え、その数が力となり、地殻変動を起こしているように感じます。

一人ひとりが大切な存在として、いきいきと暮らすことのできる社会の実現を目指して、今後も仕事と生活の充実を考えていきましょう。

おすすめ本

就職、結婚、子育て…^{ようらんき}揺籃期とも言うべき20代、30代の女性に贈る先輩からのエール。時折読んでみてください。勇気が湧くでしょう。

30歳から伸びる女(ひと)、 30歳で止まる女(ひと)

有川 真由美

思わずドキッとすることの本のタイトル。なぜ、30代から？そこには、この世代だからこそ直面する状況が関係しています。責任ある仕事を徐々に任せられるようになる、結婚・出産についても目前に迫ってくるなど、たくさん悩み、不安を感じる中で、否が応でも大きな岐路に立たされるこの世代。しかし、嬉しいことに誰もが30代の経験をプラスに転じ、極上の実をつけるかのように成熟できるといいます。そのためには「どんな考え方をしているのか」「どんな選択をするのか」「どんな行動をとっているのか」が鍵になるとのこと。人間関係の大切さや、スランプの乗り切り方など、誰もが経験する場面で、こんな行動をとれば30歳からも伸びていけると気づかせてくれる内容です。

筆者はユニクロの店長や、着付け講師、ブライダルコンパニオンなど多様な仕事を経験し、それぞれの仕事をどう次のキャリアに活かすか常に考えてきたといいます。その経験から考え・選択し・行動する大切さを余すところ無く伝え、すぐに実践したくなるのがきつとみつけられます。



PHP研究所 1,155円

妹たちへ

日経 WOMAN 編

この本では、作家やアナウンサー、ミュージシャン、スポーツ選手、医師などその道のプロフェッショナルたち27名の女性が、若い頃の数々の苦悩、挫折、失敗を包み隠さず素直に綴っています。今の彼女たちを作り上げてきたものは、そんな地道な日々であり、誰一人として、運良くはじめから成功した人がいないということがよく分かります。

「若い頃はみっともなくいい」「天職はいつか降ってくる」「女性には年をとらなければならないことがある」などタイトルにも興味をそそられます。「妹たち」である20代、30代の若い世代が感じる不安や戸惑いを拭い去り、勇気をくれる内容となっています。もちろん、それ以外の年代でも共感できるものがたくさんあります。27名の人生の先輩たちが、同じ女性である私たちに投げかけるメッセージの中には、きっとあなたにあったロールモデル（お手本）が見つかるのではないのでしょうか？



日本経済新聞出版社 800円